

議会だより

からうら

No. 36
2006.7.30発行

- | | | | |
|--------------|---|----------------|----|
| 補正予算 | 2 | 金比羅堤防強化の要望書を提出 | 5 |
| 1,508万4千円を可決 | | 町のふところ具合 | 5 |
| 国保税引き下げ | 3 | 6議員町の考えをたず | 6 |
| 勝浦中学校は危険 | 4 | 8人家族の洗濯は大仕事 | 12 |



生比奈保育所 七夕まつり

補正予算の内容

歳入

障害者認定審査会共同設置負担金
上勝町、佐那河内村から **77万9千円**

情報通信費負担金
上勝町から **258万6千円**

電気通信設備貸付収入
NTT西日本-四国から **1,130万8千円**

前年度繰越金 **113万1千円**

歳出

情報通信設備保守委託料
NTT西日本-四国へ **1,350万6千円**

障害者福祉費 **229万8千円**

一千五百八万四千円の
補正予算を可決

六月六日から十四日までの九日間開かれ、十八年度一般会計補正予算、議員提出の意見書と乳幼児医療費の助成に関する条例改正などを全員一致で可決しました。また、土地開発公社の経営状況などの報告と人権擁護委員の推薦に同意しました。一般質問は六議員が町の考えをただししました。

主な質疑

問 上勝町、佐那河内村との障害者程度区分認定審査会委員の定数は条例で十人以内

となっているが、五人で出発するのはなぜか。

答 福祉課長 今は件数が少ないので五人か

が増えた場合を考え十人としている。

問 乳幼児医療費の無料化に関して県は立て

替え払いの方針である。町としては負担が要らないようにすることのだが、町外で治療を受けた場合はどうするのか。

答 福祉課長 国保連合会と協議中でまだ結論は出ていない。



◀ ケーブルテレビ工事

第一回臨時会

国民健康保険 税率を引き下げ

五月二十三日に開かれ、町長から介護保険の税率引き上げや、年金、高齢者控除の見直しにより、負担が増える高齢者に配慮し、国保会計にもゆとりがあることから、保険料の引き下げを行いたいと提案があり、全員一致で可決しました。

人権擁護委員

寺尾弘恵氏(星谷)
の推薦に同意しました。

議員提出議案

ずさんな米国産牛肉の輸入に抗議し、BSEの万全な対策を求める意見書

◆ 提出先

内閣総理大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、食品安全担当大臣、県選出国會議員

平成17年度 土地開発公社の決算内容

収入	土地賃貸収入 ナカテツから	568万8千円
	借入金	1億4,530万9,130円
	繰越金	63万6,562円
	利息	643円

収入合計 1億5,163万4,335円

支出	土地取得造成費	88万3,874円
	管理費	4万4千円
	借入金償還	1億4,949万545円

支出合計 1億5,041万8,419円

差引残高 121万5,916円

勝中耐震診断

校舎・体育館とも危険

五月十五日、六月一日に委員会を開き、平成十八年度一般会計補正予算や条例改正などについて説明がありました。

教育委員会から 勝浦中学校

の耐震診断結果について、校舎、体育館とも危険性が高いと説明がありました。

問 危険だと診断されたが、どう対応するのか。

答 教育委員会事務局長

町の防災五カ年計画に中学校の耐震化を入れてあるので、国の補助金が受けられる。議会や関係団体と協議し対応したい。



耐震性が低い中学校

福祉課長から 勝浦町、上勝町、佐那河内村障害程度区分認定審査会の共同設置について説明がありました。

問 委員の任期、メンバー構成は。

答 福祉課長 初年度は一年、次年度

から二年任期とする。委員は社会福祉士や精神科医師などをお願いする。

問 乳幼児医療費の助成に関する条例改正は

答 福祉課長 県の制度では六百円の

自己負担と窓口で医療費を全額支払い、後で返金される方式だが、町条例では自己負担も立て替え払いも不要な方式を検討している。

委員会ハイライト

情報通信基盤整備事業

年間負担金は

約五百万円

五月十六日と三十一日に委員会を開き、十七、十八年度一般会計補正予算、勝浦町税賦課徴収条例の一部を改正する条例と、土地開発公社の経営状況について説明がありました。

参事から 情報通信基盤整備事業の設備の賃貸借に関する契約と、町税賦課徴収条例の一部を改正する条例について説明がありました。

問 町の年間負担金はいくらか。また保守に対する責任と連絡先は。

答 参事 約五百万円で、故障などの連絡はNTT西日本―四国である。

税源移譲後の所得税・個人住民税の税率

★所得税	(課税所得)	(税率)
	～195万円	5%
	195万円～330万円	10%
	330万円～695万円	20%
	695万円～900万円	23%
	900万円～1800万円	33%
	1800万円～	40%

★個人住民税 一律 10%
(内訳) 道府県民税 4% 市町村民税 6%

問 町税賦課徴収条例改正によって税率をフラット化するというのが、どうなるのか。

答 参事 個人住民税については一律十%になる。

◎委員会として本会議に上程することを了承しました。

中角、金比羅堤防強化の 要望書を提出

七月六日、中田町長から徳島土木事務所長および、徳島県河川課長に金比羅堤防の強化に関する要望書を提出しました。

要望書提出には、岡本県議、中田町長、森議長、原田勝浦川整備促進特別委員長ほか委員、中角区役員、および担当者が出席し、町長から集中豪雨や台風時の水位上昇時には、堤防裏の田畑各所で漏水も確認されており、今後、甚大な被害が出る恐れがあり、住民の安心と安全を確保するために金比羅堤防強化の改修を行うよう要望しました。



徳島土木事務所長から、勝浦川堤防については下流から順次改修を進めているが、今回、要望箇所である金比羅堤防についても現場を確認して、当面は災害復旧事業で取り組みたい。そのためには、漏水箇所の確認など地元の協力もお願いしたいとのことでした。

平成17年度末の 町のふところ具合

預貯金等

○ 財政調整基金	約 5億440万円
○ 減債基金	約 2億2,279万円
○ 横瀬橋架替 周辺対策基金	約 5,510万円
○ 地域福祉基金	1億5,450万円
○ 自ら考え自ら実践する 地域づくり基金	1億円
○ 国民健康保険 財調基金	1億円
○ その他基金	約 8,397万円
○ 病院会計	
各種引当金	約 3億135万円
減価償却累計	約 3億7,696万円

預貯金合計 約 18億9,920万円

借金

○ 普通会計	約 48億4,500万円
○ 特別会計	
簡易水道	約 2億6,680万円
集落排水	約 1億8,750万円
その他	1,500万円
○ 病院会計	約 3億5,200万円

借金合計 約 56億6,640万円

現金扱い分(町の運転資金)

毎日変動している。

○ 普通会計	約 3億8,740万円
○ 特別会計	約 3億4,530万円
○ 病院会計	約 4,806万円

現金扱い分合計 約 7億8,076万円

みかんの振興策は

産地確立を目指し支援を続ける

(町長)

中西晴美 議員



問

みかん産業の振興策が他県に比べ劣っている。町は県に対してどのような要望をしているのか。

答 町長

十四年度から貯蔵みかん産

地活性化事業に積極的に取り組んでいる。町単事業も他町村以上に予算計上しているが、今後も産地確立を目指し、県の事業と合わせて支援していきたい。

商業支援策の強化を

強化を

問

町内の商業は売上げが毎年三十%程度下がっている。三百万円の商品券補助では不十分だ。更なる支援策を。

答 倉坪産業建設課長

商工会へは商品券を含め五百七十万円の補助をしているが、今後も財政の許す限り支援していきたい。

国保税引き下げは問題

問

国民健康保険会計の積立金等が四億円程度あることから、今後、七年間で一億円の国保税を軽減することだが、内容が良好なために交付されている特別交付金を取り消される恐れがある。どう思っているのか。

答 戸川参事

今までの評価から見て特別交付金は維持できると思っている。

答 町長

今後、合併な別交付金の見直しの恐れもあるので、注意して対応する。



町長

十七年度決算の見込みは

問

十七年度の決算見込みと財政対策は。

答 戸川参事

歳入四十三億三千万円、歳出三十九億四千万円、經常収支比率九十五%、財政力指数〇・二四、公債費比率二五・五%、起債制限比率一六・五%となる見込みである。十八年度は税源移譲もあるが、交付税が厳しい見通しから、基金を取り崩して予算編成をしている。

勝浦病院 診療報酬改定で 厳しくなるのでは

かなりの減収を想定

(病院事務局長)

問

十七年度の病院経営は良好であったが、四月からの診療報酬改定で今後の経営は厳しくなるのではないか。

答 幸野病院事務局長

入院収益は加算分がすべて算定から外され一千万円から一千二百万円、外来は単純に計算すると一千三百万円の減収が想定される。



診療報酬改定で減収予想

助役選任を急げ

できるだけ早く選任したい（町長）

森 敏治 議員



問 町長の考え方を職員に浸透させるためや、合併問題など近隣市町村との調整役としても早く助役を選任すべきではないか。

答 町長 参事や課長にをかけているので、補佐役相談役として助役は重要と考えている。人選を急ぎ議会の同意を得たいと思っている。

防災対策 一日も早い取り組みを

問 町長は全地区に自主防災組織を結成してそれを核に安全安心の町づくりをすることを公約しているが、課の統合効果を発揮させる意味からも、各地区の役員や消防団の協力を得て一日も早く防災体制を組むべきではないか。

答 町長 自主防災組織は年内に九地区になる見通しである。全地区での訓練も考えていたが時間と人手が足りず実現できていない。防災無線や光ケーブルの整備により情報も早く伝わるので、役場と地域との連携を取りながら、災害に対応していききたい。

町税滞納者に 対する姿勢は

悪質者には強く 対応 （町長）

問 悪質な町税滞納者などには法的手段で対応すべきと思うが、基本的な考え方は。

答 町長 町税滞納者は県の滞納整理機構を活用して強い姿勢で対応していきたい。

地籍調査 完了はいつ

全く見当がつかない （産業建設課長）

問 棚野地区からスタートした地籍調査は、何年ぐらいで完了する見込みか。また、境界を知る人も少なくなり、補助金も減少すると思われるので、課の統合を契機に一日も早く完了するよう取り組むべきでは。

答 倉坪産業建設課長

何年で完了するか全く見当がつかない。今年度も三千万円の予算要求をしたが一千万円しか認められなかった。課の統合効果が発揮できるよう対応していきたい。

前進しない ゴミ分別

問 昨年も質問したが、その後何一つ前進していない。その要因は何か。

答 松田住民課長 トボトボでは早く分別できるよう頑張りたい。



地籍調査の完了はいつ



松田住民課長

徳島市の中核市構想

本町の臨むスタンスは

合併を前提としない（町長）

大西一司議員



問 徳島市長は、人口四十万人規模の中核市構想を示し、徳島東部地域のあり方を考える懇話会を設置するとしているが、合併を含め本町はどのようなスタンスで臨むのか。

答 町長

東部地域のあり方について意見を交換するための懇話会としては賛成だが、この会は合併を前提としないというところをえている。

防災対策

今後の計画は

二人の担当者を配置（参事）

問

地震防災対策の進捗よく状況と今後の取り組み計画は、また勝中の耐震化工事予定は。

答 戸川参事

現在、八地区で自

主防災組織が結成されているが、全地区で組織化できるように取り組む。また庁内に二人の担当者を置き対策を進めていきたい。

答 教育長

勝中の耐震化は、学校施設整備三年計画の補助事業を申請している。



教育長

保育所民営化
関係者の理解が必要では

町民に広く説明し進めていく（参事）

問

平成二十年をめどに、二保育所の内一つを民営化の方針だが、全国数カ所で民営化反対の訴訟が起きている。町民に十分説

明し関係者の理解を得て慎重に進めるべきだ。

答 戸川参事

第二次行財政改革

の中で、一つの保育所の民営化を推進するとしている。十八、九年度に十分調査、研究し町民に広く説明しながら関係者の理解を深め進めていきたい。

答 町長

鳴門市や小松島市など先進地の事例やメリット、デメリット、受け皿等を調査、研究し、保護者や関係者と協議、検討し結論を出していきたい。

生小通学路
狭あい部の
改良急げ

早期着工に取り組み（町長）

問

生小通学路の中角地区は道幅が狭く、以前から指摘されている危険な場所だ。地元の人にも改良に協力的と聞く。県と協議し早く対応を。

答 町長

地元関係者の熱心な努力を無駄にしないよう、早期の改良に向けて一生懸命取り組んでいきたい。



危険な生小通学路

第三子からの保育料を 無料にしては

国保税減免の
実態は

できればという思いも (町長)

適用事例はない
(参事)

井出美智子 議員



問

保育料の支払いに困っているという保護者の声がある。保育料の基準額を見直し、若い世帯が安心して子育てできるように保育料の引き下げをすべきでないか。

また、勝浦町で子育てをし続けてもらうためにも、第三子からの保育料を無料にしては。

答 町長

今年度に基づき、今年度に見直しをするので、そこで検討したい。

また、第三子から無料にできればという思いもあるが、十分勉強して子育てしやすい環境づくりに取り組みたい。

問

まじめに働いているが、生活が大変で国保税を払えない世帯がある。条例では減免対象を「貧困により生活のための扶助を受ける者」「災害等により

(参事)

生活が著しく困難になった者」とあるが、過去五年間で申請した人数と適用した事例はあるのか。

また、お飾り的な条例ではなく、生活保護基準などをもとに現実的な対応をすべきでは。

答 戸川参事

二人の申請があつたが、適用した事例はない。

答 町長

本町には減免の取扱い要領があり、申請があれば、それにもとづいて対応したい。

問

介護保険制度の改定により、在宅サービスなどに不都合はないのか。

例えば、電動シニアカーが今まで二千元くらいの負担で利用できたのに、二万円以上になり困っているという事例も出ている。町独自の対策も必要では。

答 岩佐福祉課長

利用料が

高くなった人もいと聞いている。町の独自施策は難しいが、社協等と連携しながら工夫していきたい。

また、十七年度は二十七人、約九十二万円の滞納があった。



第三子からの保育料を無料にしては



岩佐福祉課長

助役選任の時期は

九月議会をめどに（町長）

国清 栄議員



問 町長は三月議会で助役選任は早急に対応したいと答弁したが、現在も不在のままである。選任の時期を示すべきだ。
また、参事は助役不在の影響をどのように感じているか。

答 町長

四月、五月は行事も多く時間的にゆとりがなく遅れている。補佐役の必要性は十分認識しているので、選任については九月議会をめどに結論を出したい。

答 戸川参事

助役不在は各課の調整、職員の担当事務の指揮、監督などを十分できない恐れがある。



参事

二学期制の導入は

現状でいききたい

（教育長）

問

二学期制については、県下で導入している学校を参考に成果と問題点を十分検討し、対応を考えていきたいとの方針であったが結論は出たのか。

答 教育長

現在、小学校二百二十

二校中八十八校、中学校は九十校中三十九校が二学期制に移行している。メリット、デメリットいろいろあるが、校長会、教育委員会で審議し結論として「三学期制の方が節目が良いい」という意見であり、その方向でいきたい。
県教育委員会は移行について十分検討するようにとのことである。

星谷橋

今後の取り組みは

財政事情を含め県と協議

（町長）

子育て支援

帰省中の子供も対象にしては

法的に可能ならば

前向きに

（町長）

問

老朽化した星谷橋の架け替えは、町の振興計画にも盛り込まれた大きな課題だ。財政の厳しさは理解しているが、基金等を創設し前向きの対応が望まれるが。

問

一時的に帰省している子供が、町内の子育て支援策に参加できるように配慮できないか。

答 町長

補助事業などで法的な問題をよく研究し、可能ならば前向きに考えたい。

答 町長

県との協議の中で本町の財政事情も十分に説明し、対応を考えたい。



星谷橋架け替え基金の創設を

出前講座は軌道修正か

グループ・団体など小規模で
(町長)

西浜勝己議員



をしばり二十人程度で行いたいと思っている。将来は区長にお願いして地区ごとに行う機会も設けたい。

簡易水道町営化 その後の 取り組みは

問 今までの答弁では、簡易水道の町営化は、十七年度中に原案を作成し、組合長会議で説明することであった。その後何回会議を持ち、どのような結論が出たのか。

また、施設も老朽化してきており、補正予算も必要でないか。

答 町長

町長は所信表明で区長会を通じ、できるだけ多くの人が参加できる出前講座を行いたいといっていたが、今議会では団体などからの要請があれば開催すると答弁が違ってきている。軌道修正したのか。

各区にお願いする方法では、陳情型になってしまうので、グループ、団体等でテーマ



できるのか 簡易水道の町営化

答 倉坪産業建設課長

原案作成が遅れ、昨年の五月以後組合長会議は開催していない。ライフラインの中で最も重要な事業なので、補正対応もしていきたい。



倉坪産業建設課長

公共施設の有料化 スポーツ振興への 影響は

効率的運用を(町長)

問 町内の公共施設有料化を十月をめどに進めようとしているが、スポーツ振興の妨げにならないか。また、各施設の使用料についての考えは。

答 町長

公共施設を効率的に利用してもらい、スポーツの振興が図られるようにしていきたい。

答 秋成教育委員会事務局長

学校体育館、社会体育館で一時間一面三百十五円、ナイター施設で小学校六百三十円、中学校が一面千五百円と試算しているが、今後、各種団体ともよく協議していきたい。

課の統合による 問題点に どう対処

問

三月議会で住民サービスの下にならないうように取り組んでいくとの答弁であったが、人事異動も含めて業務全体の停滞が見受けられる。この状況にどう対処するのか。

答 町長

問題点については、職員と協議し、的確に指示をしていきたい。

答 戸川参事

各課が連携して町民の目線に立ちサービスが低下しないよう取り組んでいきたい。

元気が一番

家族八人の洗濯は大仕事



井出クニエさん（今山）
明治43年11月10日生（満95歳）

Q ご家族は
A 長男夫婦、孫夫婦とひ孫が三人の八人家族です。

Q 出身は
A 上勝町福川です。今山に嫁いで七十六年になります。



Q 趣味は
A 八十歳過ぎまでゲートボールをしていましたが、足が痛くなりやめました。テレビを見るのが大好きで、特に相撲やクイズ番組、時代劇をよく見えます。

Q 毎日をどうして過ごしていますか
A 八十四歳までみかん採りに山へ行っていました。野菜作りは九十歳まで現役で励んでいました。

今は足が痛いので家族八人の洗濯物と庭の草むしりなど手に合うことをしています。洗濯は、全自動洗濯機で二、三回に分けて回し、シルバーカーに積んでいって干し夕方取り入れて、分けてたんだと大仕事です。



▲ 1976年 65歳のころ

Q 心に残っていることは
A 夫が二度の招集。ジェーン台風で家が浸水したりと大変な思いもありました。

夫は、私が五十一歳の時にガンで亡くなりました。

Q 幸せだと思ふことは

A 夫の残したみかん園を家族が助け合って作り続けている事が何よりです。また、ひ孫に肩をもちてもらった時に寿命が延びる気がします。

編集後記



二〇〇七年問題、いわゆる団塊世代の大量退職がクローズアップされているが、いろいろな影響は今に始まったことではない。勝浦町では幼稚園の建設に始まり、小、中学校では教室等の増築に追われ、婚期には福祉センターに結婚式場も作った。青年会では町を揺り動かすような活動もし、職場では企業戦士としてがむしゃらに働いた。良きにつけ悪しきにつけ社会に大きなインパクトをもつ世代が定年を迎え、今後の動行が注目されている。県外に多くいる友人が故郷に思いをはせてくれるのだろうか。

ウターンは町の活性化の一助として期待されているが、受け皿作りが急がれる。

(一司)



昭和44年度 勝浦町成人式記念 (S. 44. 1. 2)